

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月25日

【評価実施概要】

事業所番号	1273400307
法人名	有限会社憩
事業所名	グループホーム憩
所在地	〒299-0236 千葉県袖ヶ浦市横田1708番地1 (電話) 0438-75-7010

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成20年3月24日	評価確定日	4月30日

【情報提供票より】(20年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	5人, 非常勤 3人, 常勤換算 4.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円	その他	食費40,200,水道光熱費22,500,理美容代,おむつ代,医療費	
敷金	無		有りの場合 償却の有無	滞納利用料・退居時のクリーニング代等清算の上で返却
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(500,000円)			
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	540 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,340 円			

(4) 利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	80 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	君津中央病院 さつき台病院 木更津東邦病院 福王台外科内科等
---------	--------------------------------

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設から5年経ち、地域にも理解され、入居者、職員ともに近隣と友好的な関係ができています。理念として「1.近所・地域住民や家族とのふれあいを大切にします。2.自然の恵みに感謝し、健康で笑顔のある日々を大切にします。」という文言を掲げているが、訪問してみると、まさに理念が実践されていることを実感する。職員は明るく穏やかで、入居者の表情も生き生きとしている。管理者はホームの課題を良く把握していて、後は実行するばかりという状況なので、今後がますます期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回、取り組みを期待したい項目となっていた理念の共有と日々の取り組みについては、地域密着型サービスとしての理念を、みんなでつくり、職員全員に浸透している様子が伺えた。プライバシーの確保の徹底については、契約書にも謳い、職員の意識も高い。災害対策については消防署の協力により避難訓練を実施した。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員が各自、自己評価を書き、それをもとに管理者がまとめた。自己評価をできなかった職員は、出来上がったものを読み、意見があれば伝えるようにした。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	討議内容としては、外部評価について、グループホームの職員体制、防災管理体制、年間行事計画等。会議を生かした取り組みとして例をあげると、防災に関して、「年1回の訓練では少ないのではないか」という意見が出され、あと1回何らかの形で訓練を行うことを検討中である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	重要事項説明書に苦情相談窓口を明記するとともに、面会時にも積極的に要望、意見を聞くようにしている。何か要望があれば、可能な限り、すぐに対応するようにしている。また、運営推進会議に家族の出席もあるので、そこで出される意見も吸い上げ、運営に活かすようにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	施設長が地元ということもあり、グループホームの存在が地域に認知されている。散歩に出た時は挨拶を欠かさず、ご近所から野菜の差し入れもある。また、地元のゲートホール大会に参加したり、ホームの納涼祭には近隣の住民を招待している。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「1.近所、地域住民や家族とのふれあいを大切にします。2.自然の恵みに感謝し、健康で笑顔のある日々を大切にします。」という地域密着型サービスとしての理念を、みんなでつくり、実践している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員に浸透している。散歩や買物を通じて地域住民と交流を持ったり、ホームの畑での野菜作りなど毎日のケアの中で、自然に実践されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	敬老の日の行事や、市のゲートボール大会参加、ホームの納涼祭に近隣の住民を招待する等、積極的に地元の人々と交流する機会を作っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は職員が各自、自己評価をして、それをもとに管理者がまとめた。自己評価に参加しなかった職員についても、出来上がった自己評価を読んでもらい、意見を聞いた。前回の評価も全員が理解しており、取り組んでいきたい項目について、努力をした。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催されている。参加者は、市職員、民生委員、区長、家族代表、ホーム管理者等。会議ではホームとしてさまざまな情報提供を行い、意見をもらっている。会議で出された意見から、防災訓練の見直しを行った。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長は様々な機会を捉えて、市との連携を密にしている。また、市の介護相談員等も定期的にホームを来訪している。今後は地域包括支援センターとも連携を図る予定である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、健康集計表(バイタルデータと生活状況を記載したもの)を送付している。金銭管理をしている入居者については金銭出納帳で管理し、レシートを添付している。家族にはコピーを送付している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に入居者家族代表にメンバーとして入ってもらっている。また、面会時や家族会の折りに、意見や要望を聞くようにしているが、遠慮から意見を言えない家族もいることが想像される。また、重要事項説明書の苦情相談窓口がホームだけである。		家族会をもっと活用して、声を出せない家族の意見を吸い上げる工夫が期待される。また、苦情相談窓口へ外部の連絡先を併記することが望まれる。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員がひとりで、悩みを抱え込まないように配慮し、職員の離職をできるだけ避ける努力をしている。やむをえず退職者が出た時も、退職者が時折ホームを訪れ、「会いたい」と言っていた入居者の希望を叶えるような支援をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修については、情報提供をし出勤扱いで受講できる。研修に出た職員は他職員に報告し、共有している。しかし、全職員が、段階に応じて、必要な研修を受けているとはいえない。		常勤、非常勤を問わず、必要な研修が受講できる工夫が必要と思われる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長は、様々な場面で同業者と交流する機会を持っている。しかし、職員の交流までには到っていない。		同業者との交流は、サービスの質の向上には欠かせないと思われ、職員がその機会を持つことが重要と思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族、知人に面会に来てもらい、少しずつホームに慣れてもらえるよう配慮している。また、最初は自宅とホームを行ったりきたりして、少しずつホームにいる時間を長くするような工夫も取り入れている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者から教わることは沢山あるが、特に山菜を使った料理等は入居者に教わりながら作ることが多い。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は入居者に対して日々の生活の中では常に声かけをし、行動や表情からの把握に努めている。また、新たな取り組みとして、個人の生活歴や趣味などの情報を職員が共有できるよう、家族の協力も得ながら入居者のプロフィールの作成を始めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>細かく項目を分けたケアチェック表に入居者や家族の希望を聞く欄がある。また、職員の意見も吸い上げ、総合的な意見の基に介護計画が作成されている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>朝のカンファレンスにおいて、職員間で入居者の状態の変化等の意見交換がされ、必要に応じて介護計画の見直しがされている。定期的な見直し(6ヶ月ごと)の前には、家族と職員に用紙が配布され、意見が反映される仕組みがある。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院時の送迎や必要に応じての買物の支援は行っている。しかしながら入居者の要望である、地域活動への定期的な参加への対応には至っていない。		ショートステイ、デイケアへのサービスの拡大に関しては、市に申請中であるが、今後は、入居者の要望に柔軟に対応できるよう、サービスのさらなる充実が期待される。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院の医師へは隔週で訪問診療を依頼し、入居者が希望するかかりつけ医への通院時には送迎の支援がされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	具体的な方針を決める際には家族に意向を聴き、職員も話し合いに参加することによりグループホーム全体として入居者を支える体制を整えている。職員である看護師による吸引の方法などの指導も職員にされている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は常に入居者の立場に自分を置き換え、プライバシーの配慮を考えながらケアを行っている。入居者への対応の注意点などの情報は、申し送りを通じて職員間で共有されている。記録に関しては所定の場所で保管されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決められた一日のスケジュールは食事の時間以外にはなく、入居者のペースでの暮らしが大切にされている。職員は見守りながらも必要に応じてはアドバイスをし、入居者が充実した時間を過ごせるよう支援をしている。入居者から散歩や買い物などの希望が出された際には、出来るだけ個別に対応するようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者からの希望や行事にそって立てられ、ホームの畑でできた野菜を使用することにより季節感の感じられる工夫もされている。誕生日会には入居者のリクエストの場所での外食が計画されている。食事やおやつの準備や片付けは、入居者と職員と一緒にすすめている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3日の入浴となっているが、回数や時間帯は入居者の希望に応じて対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜作り、フラワーアレンジメント、習字、物語の朗読など入居者が楽しめる場面を作ると共に、納涼祭や一泊旅行など家族の参加も呼びかけている。また、本人や家族から生活歴を聴くことにより、入居者が個人の力を発揮できる場面を作る支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	健康への配慮もあり、午前中の散歩がホームの日課となっている。季節に応じて、近くの公園へのお花見や潮干狩りなど外出の機会もある。買物など入居者個人の外出希望については、難しい場合には家族の協力も得ながらできるかぎりの支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は日中はかけていない。外の門の鍵は家族の了解も得た上で、入居者の安全面を考えかけている。しかし、入居者の要望があった場合には、職員と一緒に外に出るようにしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年1回消防署の協力の下に避難訓練が行われている。また散歩の前などには、必ず職員が火の確認をすることが周知されている。夜間の職員は1名であるが、他の職員への連絡体制が整えられている。また、近隣の住民への災害時の協力も得られるような関係づくりを心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量は配慮が必要な入居者以外は、本人の食欲に合わせて調整している。食事の摂取量は介護記録表に記録している。水分補給は食事とおやつ以外にも、必要や希望に応じて随時補給されるよう、職員が入居者の状態を観察している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには食事用のテーブルがありスペースは限られているが、外からの光が取り入れられ明るく居心地のよい空間となっている。台所は入居者が料理の準備や片付けがしやすい設計になっている。庭にはテーブルがあり、天気がいい日には外で食事を楽しむこともできる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人や家族の意向にそって、使い慣れた家具が持ちこまれ、レイアウトも自由に考えている。写真を飾ったり、草花をアレンジしたりと入居者の個性が感じられる。		